

教育課程の名称	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 留学 のための課程 </div> <div style="text-align: center;"> 大学・専門学校進学1年6か月課程 (College Preparatory Course[1.5-year/starting in October]) </div>	
設置目的・経緯	<p>(設置目的) 日本語能力A2レベル以上の方が、1年6か月で日本語教育や日本文化を学びながら、総合的なコミュニケーション能力を培う課程である。 本課程では日本で進学を希望する学生を支援するとともに、日本社会で円滑に生活し、共生社会を目指せるようにサポートする。そのために地域でのさまざまな異文化体験などを通して、自己実現をはかり、日本社会の発展に貢献し、日本と世界とを繋ぐ架け橋となる人材を育成することを目的としている。</p> <p>(経緯) 日本では少子高齢化に伴う人口減少が進む中、特に地方都市においてはその傾向は顕著であり、重要な課題となっている。また世界においてグローバル化が進む中、日本においても外国人の人材登用が進み、日本と海外を繋ぐことのできる優秀な人材の育成が急務であると感じ、千葉県成田市での日本語学校設立に至った。</p>	
主たる対象	<p>日本での就職（在留資格：技術・人文知識・国際業務）を叶えるために、我が国の大学・専門学校等の高等教育機関に進学を志望する留学生を中心に5つの言語活動に配慮しながら、卒業後も自律学習が継続できる者を対象とする。</p>	
教育課程の到達目標	<p>日本社会で円滑に生活し、社会に認められ持続的な関係を築くのに必要なコミュニケーション能力を身につけることを目指し、進学を希望する専門分野への接続に必要な言語的な知識や技能に加え、自らを取り巻く社会や話題に興味関心を持ち、情報の適切な取捨選択ができる。 自律学習ができ、日本語を使って様々な課題を解決することができる。 議論も含め、具体的・抽象的な話題での複雑なテキストの主要な内容を理解できる。 お互い緊張しないで熟達した日本語話者と自然にやりとりができる。 ある程度広汎な範囲の話題についても不自然なく明確で詳細なテキストを作ることができ、様々な選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。 他者の感性や考え方に触れ、刺激しあう中で協働的に学習できる。</p>	
日本語能力の到達目標	B2	

言語活動ごとの 到達目標	聞く	読む	話す（やり取り）	話す（発表）	書く	
	B 2	B 2	B 2	B 2	B 2	
学習を自ら管理する能力	<p>学習者自らが学習目的・目標を持ち、計画・実行し、振り返り、必要に応じ、学校や周囲の支援を活用しながら学びを継続・改善できる能力を育成する。そのために「自律学習」と「自己評価」、「面談」と「個人記録」を大切にする。</p> <p>留学生本人に必要なこととして、①学習目的・目標を明確にし、言語化できるようにする。②自らの学習計画を立てることができ、そして継続できるようにする。③自らが学習を振り返り、自己評価できるようにする。④ポートフォリオを作成し、自らが振り返った内容を踏まえ、管理・調整できるようにする。⑤わからないこと、体調・生活、学習方法をきちんと相談できるようにする。</p> <p>学校が支援すべきこととして、①目標設定を月初に学生と相談して決める。②学習計画シート、チェックリスト、自己評価表を使い、進捗をチェック。ポートフォリオ評価する。③その日の振り返りの時間を授業の最後に5分持つ。④どう覚えるか、どう予習、復習するか、どう間違いを直すかといった学習方法そのものをアドバイスする。⑤出席状況、授業記録を元に月1回の面談を行い、その結果も含め、パソコン上にデータとして学習目標、指導内容、改善内容など個人記録を管理すると共に、学生と全教職員間での情報共有、意思疎通を図る。</p>					
修業期間	1年6か月					
総学習時間	1200単位時間	※認定日本語教育機関認定基準第20条第2項（日本語教育課程以外の科目の履修）に該当			左記に該当する場合、総学習時間のうち、日本語教育課程以外の科目の学習時間	
総授業週数	60週					
1日あたりの授業時間	4単位時間/日（1単位時間＝45分）					
1週あたりの授業時間数	20単位時間/週（1週＝5日）					

<p>成績・修了要件</p>	<p>(成績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の二期制で対応。各レベル、授業科目ごとにA(秀) B(優) C(良) D(可) E(不可)の5段階とする。 ・形成的評価は、 <ul style="list-style-type: none"> ◆紙筆によるテスト(単元テスト、アチーブメントテスト、ディクテーション等)は各100点満点(A100~90:B89~80:C79~70:D69~60:E59~0・評価スコアはA:B:C:D:E(再テスト))：総合/漢字・語彙/聴解/読解/文法 ◆パフォーマンステストは(別に定める変換表に従いA:B:C:D:E(再テスト))：総合(ロールプレイ)/読解(朗読)/会話(ロールプレイ)/作文/発表 ◆提出物は回数%とする。(A100~90:B89~80:C79~70:D69~60:E59~0・評価スコアはA:B:C:D:E(課題提出)) ・総括的評価は、 <ul style="list-style-type: none"> ◆紙筆によるテストは各レベルの修了テスト(A100~90:B89~80:C79~70:D69~60:E59~0・評価スコアはA:B:C:D:E(再テスト))：総合/漢字・語彙/聴解/読解/文法 ◆パフォーマンステストは(別に定める変換表に従いA:B:C:D:E(再テスト))：総合(ロールプレイ)/読解(朗読)/会話(ロールプレイ)/作文/発表 <p>また各科目評価に加え、言語活動ごとの評価をCEFRレベル表示で明記する。 尚、進学先には言語活動における成績評価も成績評価体系に基づき、併せて提出する。</p> <p>(修了要件)</p> <p>成績評価：「評価D(可)」以上の評価のある者 (但し、科目内に一つでも成績Eがある場合、再テストを実施し、合格すれば修了とする。)</p> <p>出席状況：80%出席以上の出席の者 (但し、出席率が80%未満の場合、補習に出席し、課題提出があれば修了とする。)</p>
----------------	--

日本語教育課程のレベル設定の概要

参照枠	レベル設定	到達目標 (Can do)	1 週あたりの 授業時間数	期間 (月数・週数)	合計授業時間数
A 2	A 2	ごく基本的な個人情報、買い物、近所、仕事など直接的関係がある領域に関する、よく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について情報交換に応じることができる。非常によく使われる日常的な言葉や具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。人物や日常の簡単なこと好き嫌いなど単純な記述やプレゼンテーションができる。簡単な表現や文を書くことができる。	20単位時間	22週	440単位時間
B 1	B 1	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について主要点のある程度理解できる。身近で個人的に関心のある話題についてある程度脈絡のあるテキストを作ることができる。必要な情報を見つけるために長いテキストにざっと目を通し、特定の課題遂行のための情報を収集できる。	20単位時間	22週	440単位時間
B 2	B 2	進学を希望する分野も含め、抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な部分はある程度理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやりとりができる。自分の関心のある分野に関連した広範囲の話題について明確にある程度詳しく述べるができる。いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で明瞭である程度詳細なテキストを書くことができる。	20単位時間	16週	320単位時間
			合計	60週	